

令和6年度 舞台芸術等総合支援事業  
(芸術家等人材育成)



新進バレエダンサー・バレエ団運営スタッフの育成

報告書



---

# 目次

---

## ● 事業概要

- 1章 マスタークラス・公開レッスン実施報告……3
  - 1-1 ローラン・フォーゲル氏によるマスタークラス・公開レッスン……5
  - 1-2 パトリック・アルマン氏によるマスタークラス……9
  
- 2章 海外実演団体運営状況調査……13
  
- 3章 セミナー実施報告……19
  - 3-1 怪我防止セミナー……21
  - 3-2 著作権セミナー……23



# 令和6年度 舞台芸術等総合支援事業 (芸術家等人材育成)

---

## 事業概要

### 1. 事業名

新進バレエダンサー・バレエ団運営スタッフの育成

### 2. 事業の趣旨・目的

習い事文化が広く根付いている我が国において、バレエは人気の習い事であり、その広い裾野から優秀なダンサーが育ち、国際的に活躍している。一方でその背景に、多くの優秀なバレエダンサーが海外に活躍の場を求めている現状があり、日本におけるバレエ団の運営基盤整備や、バレエ芸術を支える人材の育成が求められている。

本事業では、新進バレエダンサーの育成を目的とした優秀指導者によるマスタークラス・公開レッスンの実施、運営スタッフに向けた海外実演団体運営状況調査レポート発行、そして、バレエ関係者を対象としたセミナー開催により、新進ダンサーとバレエ団運営スタッフの両面から、総合的にバレエ芸術に携わる人材の育成を行う。

本事業を実施することにより、日本バレエ界全体の芸術水準向上とさらなる発展に寄与することを目的とする。

### 3. 事業の内容

#### (1) マスタークラス・公開レッスンの実施

##### ・ローラン・フォーゲル氏によるマスタークラス・公開レッスン

指導対象：東京バレエ団※、東京シティ・バレエ団

※印の団体で公開レッスンを実施

##### ・パトリック・アルマン氏によるマスタークラス

指導対象：貞松・浜田バレエ団、スターダンサーズ・バレエ団

#### (2) 海外実演団体運営状況調査

調査：昭和音楽大学バレエ研究所

### (3) セミナーの実施

#### ・怪我防止セミナー

「最新版 ダンサーなら知っておきたい「からだ」のこと～スポーツ科学から考える日々のケアと対処法～」

講師：芸術家のくすり箱 理事長／お茶の水女子大学基幹研究院 教授

水村（久埜）真由美

協力：NPO法人芸術家のくすり箱

#### ・著作権セミナー

「最新版 バレエ・ダンスの上演に必要な著作権の知識と対応方法」

講師：弁護士 東海 千尋

#### ■「育成事業検討委員会」委員

安達 悦子（東京シティ・バレエ団）

小山 久美（スターダンサーズ・バレエ団）

小林 健太（小林紀子バレエ・シアター）

関口 祐美（NBAバレエ団）

堤 悠輔（貞松・浜田バレエ団）

法村 圭緒（法村友井バレエ団）

三木 雄馬（谷桃子バレエ団）

宮原 祐子（牧阿佐美バレエ団）

諸角佳津美（井上バレエ団）

山本 千絵（東京シティ・バレエ団）

米津 崇之（東京バレエ団）

廣瀬 智子（日本バレエ団連盟事務局）

## 1章 マスタークラス・公開レッスン実施報告

---



## 1章 マスタークラス・公開レッスン実施報告

本事業では、プロフェッショナルダンサーとしての活躍が期待される若手を対象に、2015年度より継続して海外優秀指導者によるマスタークラスを実施している。

本年度は、2名の海外優秀指導者（ローラン・フォーゲル氏、パトリック・アルマン氏）を招聘し、日本バレエ団連盟会員団体のバレエ団においてマスタークラスを実施した。また、ローラン・フォーゲル氏による公開レッスンを劇場で行い、クラスの様子を将来プロを目指すダンサーやバレエ指導者等に対して広く公開することで、ダンサー育成環境整備の一助とした。

### 1-1 ローラン・フォーゲル氏によるマスタークラス・公開レッスン

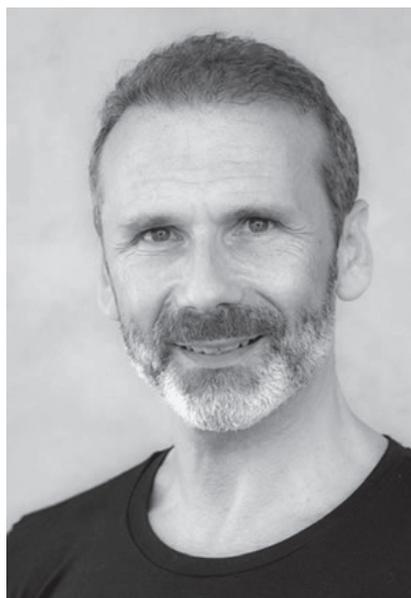
#### 講師紹介

#### ローラン・フォーゲル Roland Vogel

ジョン・クランコ・バレエ・スクールで学び、シュツットガルト・バレエ団に入団。『白鳥の湖』、『眠れる森の美女』、『ラ・バヤデール』などの古典バレエに主演、ジョン・クランコの『オネーギン』、『じゃじゃ馬馴らし』などの物語バレエをはじめ多くの作品を踊り、ダンサーとしてのキャリアの最後までシュツットガルト・バレエ団で活躍した。20世紀を代表する世界的振付家の数多くの作品に主演するとともに、J・ノイマイヤー、U・ショルツ、D・ビントリーらの新作の初演キャストも務めている。

1998年の長野冬季オリンピック大会の開会式でU・ショルツ振付『若い男』のパ・ド・ドゥを踊り、1999年には『オネーギン』のタイトルロールでブノワ賞にノミネートされた。

1999年から2001年にヴェルテンベルク州立歌劇場の教育訓練プログラムに参加、ジョン・クランコ・スクールでクラシック・バレエ教師の資格を取得した。ダンサーとしてのキャリアを終えると直ちに教師に転じ、



マリカ・ヴェズブラズヴァに招かれモナコのプリンセス・グレース・バレエ・アカデミーの教師陣に加わる。以来、現在のディレクターであるルカ・マサラの下でダンサーの育成にあたり、スクールのために多くの作品を振り付けている。カンヌ・ロゼラ・ハイタワーのゲスト教師、また、中国、日本では様々なスクールにおいてワークショップ指導を行っている。北京の中国国立バレエ団にはゲスト教師として定期的に招かれ、クランコの『オネーギン』、『ロメオとジュリエット』、U・ショルツの『第七交響曲』、『白鳥の湖』などを指導した。

東京のNBAバレエ団のコンクール審査委員会メンバー、ニューヨークのユース・アメリカ・グランプリの審査員を務め、2011年の第一回北京国際バレエ・コンクールにはゲスト教師として招かれた。2014年に振り付けた『オーゲンブリック』パ・ド・ドゥは、北京舞踏学院60周年記念のオープニングで踊られ、モンテカルロ・バレエ団の協力を得てプリンセス・グレース・アカデミーでも上演された。

## ● マスタークラス実施概要

東京バレエ団：2024年8月12日（月）～16日（金）（2クラス×5日）

東京シティ・バレエ団：2024年8月19日（月）～23日（金）（2クラス×5日）

指 導：ローラン・フォーゲル

### <マスタークラスの様子>



(東京バレエ団) / ©The Tokyo Ballet



(東京シティ・バレエ団)

## <参加者の声>

- 改めて基礎、基本の大切さを実感した。
- 今後も毎日のクラスを、新鮮な気持ちでうけることや、日々のレッスンで音楽を感じ、楽しむことを忘れないようにしていきたい。
- とてもアカデミックなレッスンで、慣れて忘れてしまっていた意識やレッスンに対する心構えを改めて指摘し指導してくださった。
- 沢山の発見のあるとてもいいクラスだった。同じパでも普段とは違うアプローチの仕方もあるアドバイスを頂けてとても勉強になった。プリエとタンジュがいかに大事か、改めて実感した。何より先生のお手本も美しく、目で見ても学べてもっと受けたいと思った。
- 先生の知識の豊富さ、またバレエや音楽への熱意や敬意がレッスンにも現れていて、ダンサー達の意識も身体も5日間でどんどん変化していった。伝え方にも学ぶ事が多く、私自身もこれから、活かしていきたいところがたくさんあった。
- 情熱を持って時には厳しく愛を持って指導してくださった。パの意味、どの筋肉をどのように使うか、生徒にはこのように教えるがプロフェッショナルはこのようにした方が良い、ミュージカルティ、呼吸が大切など…現役ダンサーのみならず指導者にとっても勉強になるクラスだった。ぜひまた指導を受けたいと思う。
- 音の取り方について沢山アドバイスいただいた事が印象に残っている。
- 「日本人ダンサーは音の取り方や角度の付け方が甘い」というご指摘をうけ、その後のクラスではカウントの取り方とアクセントの付け方を先生のお手本を見て忠実に行うこと、顔や体の角度をいつも以上につけることを意識している。
- クラス受講をしてから、付け根がくの字にならないように、しっかりとお腹を引き上げ、背中もしっかり立てることを癖づけられるよう、意識し続けている。
- 5日間クラスを受けただけでも、少し筋肉の付き方が変わったと実感している。先生からも正しい位置でレッスンをしていれば、1年後にはきっと綺麗なラインの体、脚の形になっているはず、という言葉をいただいた。そのように変化した姿を見て頂けるように、教えていただいたことを、日々考えながらレッスンしていきたいと思う。
- バーレッスンの時の1番ポジションや5番ポジションがどれだけ丁寧に出来ているか。そこで出来ていなければ、バーが無くなった時にしっかりと立てない、と指導していただいたことを忘れないようにしたい。
- 教師として、手本の見せ方だったり、音楽性の伝え方など、時にはユーモアを交え、とにかく、基礎を熱意を持って根気強く、伝え続ける事が重要なんだと感じた。

## ● 公開レッスン実施概要

「ローラン・フォーゲルのバレエ公開レッスン2024」

日 時：2024年8月25日（日）9：30～10：30

会 場：めぐろパーシモンホール 大ホール（「第12回めぐろバレエ祭り」会場）

指 導：ローラン・フォーゲル

ピアニスト：星 弘美

通 訳：ブラウリオ・アルバレス（東京バレエ学校教師／元東京バレエ団）

実 技：東京バレエ団のダンサー 計54名

見学者：計419名（事前申込制・無料／対象：小学校1年生以上）

### <公開レッスンの様子>



©Koujiro Yoshikawa / The Tokyo Ballet

### <公開レッスン見学者の声>

- 体の使い方や、音の取り方や表現力について、これまで以上に意識する機会となった。
- バレエの身体の使い方がとても参考になった。
- 指先や、目先、鼻の先まで気を配ることで、美しいバレエになるのだと思った。
- 背中からの腕の使い方や、つま先の軌道についての指導が参考になった。
- 直接体の動きについて指示するだけでなく、「爪先まで笑顔で」のように意識の持ち方についての指導が効果的で素晴らしいと感じた。
- 気分を上げながら集中もされているレッスンの様子が大変参考になった。
- 舞台上で先生がとらえている空間やリズムが本物だと強く感じ、感動した。

## 1-2 パトリック・アルマン氏によるマスタークラス

### 講師紹介

#### パトリック・アルマン Patrick Armand

マルセイユ生まれのパトリック・アルマンは、ルディ・ブライアンズと母のコレット・アルマンに教えを受け、マルセイユ・バレエ学校で学んだ。1980年にローザンヌ賞を獲得し、引き続きスクール・オブ・アメリカン・バレエとカンヌの国際ダンス・センターで研鑽を積んだ。1981年にフランス・バレエ・シアターに入団、1983年にプリンシパル・ダンサーに昇格。同年、ルドルフ・ヌレエフ共演によるベジャールの「さすらう若者の歌」でローレンス・オリヴィエ賞にノミネートされた。1984年、ペーター・シャウフスの招きでロンドン・フェスティバル・バレエ（現イングリッシュ・ナショナル・バレエ）に入団し、ブルース・マークス監督の下、1990年にボストン・バレエに移籍するまで6年間、同団で踊った。

レパートリーには、アシュトン、バランシン、クランコ、マクミラン、プティ、テトリー、ファン＝マーネンによる振付作品の主役が多数含まれる。中でも、1988年にロンドン・フェスティバル・バレエが世界初演したナタリア・マカロヴァ版の「白鳥の湖」で、ジークフリートを演じたことは特筆に値する。イギリスの雑誌「ダンス・アンド・ダンサーズ」の投票により、彼は同年の年間ベスト・ダンサーに選出された。また、ボーボット、ブルース、サーブ、ウィールドン等の振付家が彼のために作品を創作している。ゲスト・アーティストとしては、オーストラリア・バレエ団、バイエルン国立バレエ、ベルリン・ドイツ・オペラ・バレエ団、キーロフ・バレエ、小林紀子バレエシアターに出演している。2002年、マルセイユのコレット・アルマン・バレエ・スタジオの監督を引き継いだ。ゲスト教師としては、特に、英国ロイヤル・バレエ団および附属バレエ学校、カナダ国立バレエ団および附属バレエ学校、ミラノ・スカラ座バレエ団で、頻繁に指導を行っている。

2003年、東京の新国立劇場において、小林紀子バレエ・シアターのために「ライモンダ」第3幕の共同演出を行った。2006年、ミラノ・スカラ座の教師及びバレエ・マスターに任命された。また、ザグレブのクロアチア国立劇場のために「ドン・キホーテ」のプロダクションを振り付け、2010年6月に初演された。

1998年と2009年にローザンヌ・バレエ・コンク



ルの審査員を務め、2010年から2020年まで同コンクールの公式男性コーチ及び教師を務めた。2010年にサンフランシスコ・バレエ・スクール研修生プログラムのトップに任命され、2012年9月1日に同校の副校長に就任。名誉座長を務めた2017年のスチューデント・ショーケース・ディナーにおいて、同校の校長に指名された。2023年シーズンの終わりに、サンフランシスコ・バレエ・スクールの校長を辞任しフリーとなり、さまざまな国でバレエの指導・コーチングに取り組んでいる。

## ● マスタークラス実施概要

貞松・浜田バレエ団：2024年11月4日（月祝）～8日（金）（2クラス×5日）

スターダンサーズ・バレエ団：2024年11月11日（月）～15日（金）（2クラス×5日）

指 導：パトリック・アルマン

### <マスタークラスの様子>



(貞松・浜田バレエ団)



(スターダンサーズ・バレエ団)

## <参加者の声>

- 正しいポジションや繋ぎの動きなどの徹底したバレエの基礎に加えて、ポイントとなる音楽の使い方なども教えていただき、ダンサーとして、また子供たちを指導する上でも大変学びが多いクラスだった。
  - 改めて基本の大切さを再認識した。バレエスクールの教師をされていたこともあり、個々のコンディションを尊重しつつも譲らない所が随所にあり、連日繰り返し基本を注意されていて、久しぶりにスクール生に戻ったような感覚で取り組んだ。普段のバレエ団の音のテンポよりゆっくりだったので、きちんとパの始まり、終わりそしてつながりを意識しないと無駄な力が入ってしまうため、コーディネーションをよく意識するようにした。
  - パトリック・アルマン先生のクラスはとにかくアカデミック。印象的だったのは、腕の付け方が全て指定されていたこと。道理にかなった動きは、表現をする上で必要不可欠であるのだと改めて感じ、もう一度自身を見直すきっかけとなった。
  - 基礎的なことを細かく丁寧に説明していただいた。気になれば音を止めて一人一人に細かく指導していただき学生時代を思い出すようなクラスだった。基礎を大切にした上で、どう踊りに発展させていくかなどを考えることができ毎日ワクワクして、とても実りのある5日間だった。
  - アカデミックかつ的確な指導で、プロになりおろそかになりがちだった部分を省みるとても良い機会になった。指導期間を通して、段々お互いにコミュニケーションも取れ、音楽性の話やメンタルのことなど時折笑いも挟みながら貴重な話を聞くこともできた。
  - シンプルなアンシェヌマンを通して明確な注意を頂けるクラスだった。バーレッスンではご自身も動いて見せてくださり、気をつけるポイントがわかりやすかった。バーの手に力を入れないことや、軸足になっている腰を引き上げるなど、自分ではやっているつもりだったが十分でなかったことを直接注意して頂き、普段のクラスレッスンを見直す良いきっかけになった。
- センターレッスンではどのように動くかをハッキリと合理的に教えていただいた。例えばピルエットでは一つの注意ではなく、これができるようになったら次はこれを注意する、のように段階的に注意を頂けたので、自分の体の使い方を修正することが出来た。また、特に印象的な注意として、大きなジャンプの時に、早くアームスをつくり、最後までアームスを崩さずプリエで吸収しきるとというのが、今までの自分にはなかったものだった。
- 注意だけではなく、良い動きをしたときは個人個人にvery goodなどと褒めてくださることも意欲的にクラスレッスンに取り組める要因になった。先生自身も早くにスタジオに入って入念なウォーミングアップをされていたのも印象的で、その姿勢から、クラスへの熱意を感じた。ぜひまたクラスレッスンを受けたいと思う。



## 2章 海外実演団体運営状況調査

---



## 2章 海外実演団体運営状況調査

バレエは国際的な芸術であり、海外と日本のバレエ団が課題を共有することが多く、海外のバレエ団の運営事例は、日本のバレエ団運営にも非常に参考となる。本調査では、海外実演団体運営に関する時事的な話題や重要なトピックスをレポートにまとめ、日本のバレエ団運営スタッフに共有することで、バレエ団運営スタッフの育成および日本におけるバレエ団運営改善を図った。

### ● 実施概要

運営スタッフ向け「海外実演団体運営状況調査」

- レポート発行対象：日本バレエ団連盟会員団体（12団体）の運営スタッフ
- 発行時期：2024年4月～2025年3月、全22回（2週に1回1,800字程度のレポートを発行）
- 調査：昭和音楽大学バレエ研究所
- 調査方法：海外メディアによる報道の抜粋翻訳を中心としてレポートを作成（一般紙、一般メディア、業界紙、ウェブメディア等）
- 主な調査内容：海外バレエ団を中心とした実演団体の運営状況・課題・成功例や失敗例、舞台芸術に影響を与えると思われる社会運動、実演団体運営に関わる政府施策、実演団体の労働運動、最新テクノロジーの導入例、一般メディアでも話題になったバレエに関する情報等

## ● 発行レポート概要

(2025年3月11日時点)

発行日	内容
2024年 4月19日 (第1回)	・『壊れた』バレエダンサーへの治療技術、フットボール界からも注目を浴びる：オーストラリア・バレエ団 Artistic Health Center の事例紹介（オーストラリア）
5月14日 (第2回)	・ネットフリックスはバレエの競合 - 観客がそれを求めている：イングリッシュナショナルバレエ団の事例紹介（英国）
5月28日 (第3回)	・カミラ王妃、ロイヤル・アカデミー・オブ・ダンス（RAD）の新しい後援者に（英国） ・韓国でロシア・バレエ公演が再度中止（韓国） ・オーストラリア・バレエ団、ダンサーの体形に対する評論に反論（オーストラリア）
6月11日 (第4回)	・ビジネスモデル.イノベーションによる芸術の維持（要約）前編：カナダの主要な芸術団体であるカルガリー・フィルハーモニー管弦楽団とアルバータ・バレエ再構成の事例紹介（カナダ）
6月25日 (第5回)	・ビジネスモデル.イノベーションによる芸術の維持（要約）後編：カナダの主要な芸術団体であるカルガリー・フィルハーモニー管弦楽団とアルバータ・バレエ再構成の事例紹介（カナダ）
7月9日 (第6回)	・50人の音楽家がシェイクスピアの仮面を付けてノーザン・バレエのオーケストラ閉鎖に抗議（英国） ・英国国王のバースデー・オナーズリストでウェイン・マクレガー氏がナイトの称号を授与される（英国） ・パリ・オペラ座バレエ団、ジュニアカンパニーを創設（フランス）
7月23日 (第7回)	・「フレンズ」ダンスヨーロッパ263号より：会員制度に関する各国のバレエ団の事例紹介
8月13日 (第8回)	・ダンスが先導するカルチュラル・オリンピアドでの芸術とスポーツの融合
8月27日 (第9回)	・オーストラリア・バレエ団のダンサーたちがストレッチをやめた理由（オーストラリア）
9月10日 (第10回)	・ポリショイ劇場がチケット料金を2倍以上に値上げ（ロシア） ・バレエ学校の男子生徒の不足が若手バレエダンサーに問題を引き起こす：クイーンズランドバレエの事例紹介（オーストラリア）
10月8日 (第11回)	・アメリカン・バレエ・シアター（ABT）のアーティストとAGMA（アメリカ音楽芸術家協会）リーダーシップがストライキ承認を圧倒的多数で可決／ABTストライキとダンサーの公正な賃金を求める闘い（米国）
10月22日 (第12回)	・ポワントで活躍する3人のノンバイナリー・バレエダンサー：幅広い身体表現の可能性／内面からの美しさ／パートナーリング（パ・ド・ドゥ）における新たな視点
11月13日 (第13回)	・困難迫られる予算に劇場への救済措置なし（英国） ・ロイヤル・バレエ団の振付家：ダンサーはAIを恐れる必要はない（英国）

発行日	内容
11月26日 (第14回)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クイーンズランドバレエのエグゼクティブ・ディレクターが業界の課題と責任について振り返る (オーストラリア)</li> <li>・ヴァン・ノートン・リー・コミュニティ・ヘルス・インスティテュートとクイーンズランドバレエ (オーストラリア)</li> </ul>
12月10日 (第15回)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スコッティッシュバレエ団によるジェンダー (性別) と年齢を超えたバレエが来年のエジンバラ国際フェスティバルでデビュー (スコットランド)</li> <li>・マテリアル ワールド：スコティッシュバレエ団によるリサイクルの取り組み (スコットランド)</li> </ul>
12月24日 (第16回)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バレエスター、ウラジーミル・シュクリャーロフ氏がサンクトペテルブルクで建物から転落し死亡 (ロシア)</li> <li>・ダンサーのストライキでパリ・オペラ座の公演が中止 (フランス)</li> </ul>
2025年 1月7日 (第17回)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サンフランシスコ・バレエ団の『くすみ割り人形』シーズンが危機に：契約交渉が停滞 (米国)</li> <li>・サンフランシスコ・バレエ、労働組合との新合意でシーズン中断を回避 (米国)</li> </ul>
1月28日 (第18回)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウクライナのダンサー、ヴォロディミル・ラコフ氏が戦死 - 享年30歳</li> <li>・完璧なピルエットの裏に隠された科学</li> </ul>
2月11日 (第19回)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダンスはパーキンソン病患者の気分を高める：カナダ国立バレエ学校「シェアリング・ダンス・パーキンソン」プログラム参加者の追跡調査事例</li> <li>・WHO (世界保健機関) ヘルス・エビデンス・ネットワーク (HEN) 統合報告書 67 「芸術が健康とウェルビーイングの向上に果たす役割に関するエビデンスとは？」～世界各国のバレエ団によるパーキンソン患者向けダンスプログラムの紹介</li> </ul>
2月25日 (第20回)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロイヤル・バレエ・スクール、元生徒との財政的和解に合意 (英国)</li> <li>・ミラノ・スカラ座、フレデリック・オリヴィエを新バレエ団芸術監督に任命 (イタリア)</li> </ul>
3月11日 (第21回)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アーンスト・マイズナー氏、オランダ国立バレエ団の新芸術監督に就任 (オランダ)</li> <li>・ダンスにおける相対的エネルギー不足</li> </ul>

※第22回まで発行予定



## 3章 セミナー実施報告

---



## 3章 セミナー実施報告

### 3-1 怪我防止セミナー

多くのダンサーが怪我や痛みを経験しており、日々のレッスンや日常生活で怪我のリスクを減らすためにできることや、効果的な応急処置について、知識のアップデートができる機会が求められている。本事業では、バレエダンサー、バレエ学習者およびその保護者、バレエ指導者等を広く対象として、日本バレエ団連盟のウェブサイトおよびSNSで広く参加者を募集し、オンラインにて怪我防止セミナーを実施した。

#### ● 実施概要

テーマ：「最新版 ダンサーなら知っておきたい「からだ」のこと～スポーツ科学から考える日々のケアと対処法～」

開催日時：2024年8月26日（月）19:00～20:30 オンライン（Zoom）にて開催

無料配信：2025年1月10日（金）10:00～1月24日（金）23:59

日本バレエ団連盟のYouTubeチャンネルにて期間限定配信

協力：NPO法人芸術家のくすり箱

#### 講師：水村（久埜）真由美（みずむら（くの）まゆみ）氏

お茶の水女子大学 基幹研究院 教授

NPO法人芸術家のくすり箱 理事長

日本ダンス医科学研究会 代表理事



お茶の水女子大学文教育学部舞踊教育学科卒業後、東京大学大学院教育学研究科身体教育学コース修士課程、博士課程修了。博士（教育学）取得。東京大学教育学部助手を経て、お茶の水女子大学文教育学部芸術・表現行動学科（舞踊教育学コース）講師、助教授、准教授を経て現職。日本オリンピック委員会強化スタッフ（医・科学スタッフ／ダンススポーツ）。東京都スポーツ振興審議委員。国際ダンス医科学会研究委員、日本体力医学会評議員など。著書に『ダンサーなら知っておきたい「からだ」のこと』（2008）『ダンサーなら知っておきたい「トレーニング」のこと』

（2012）（大修館書店）、監修『ダンサーのヘルスケア』（医道の日本社）（2020）。

6歳からバレエを始め、谷桃子、笹本公江、川副恵躬子らに師事。谷桃子バレエ団研究所より

谷桃子バレエ団に入団。創作ダンスをお茶の水女子大学にて学ぶ。

ダンサーがより長くより美しく踊り続けるための科学的エビデンスをスポーツ医科学研究から発信するとともに、現場のダンサーやダンス指導者の支援を続けている。

「踊る全ての人の人生がダンスで豊かになるための活動をしたいと思っています」

### <主なセミナー内容>

1. ダンス・バレエってどんな運動？
2. 怪我ってどうして起こる
3. 自分に潜むリスク評価
4. 日々のレッスンから実行できる怪我の予防策
5. スタジオでできるウォーミングアップ、クーリングダウン、コンディショニングエクササイズ
6. 怪我や痛みの応急処置

※セミナー資料（抜粋版）：[https://japan-ballet.com/library/s\\_20240826/](https://japan-ballet.com/library/s_20240826/)

（日本バレエ団連盟ウェブサイトの「情報ライブラリ」内に掲載）

### <参加者>

オンラインセミナー参加者：計90名

- バレエ学習者：29名
- バレエ学習者の保護者：29名
- バレエ指導者：14名
- プロのダンサー：10名
- その他（スタッフ・トレーナー等）：8名

### <参加者の声>

- 捻挫の応急処置について、聞くことができ良かった。（バレエ学習者）
- ウォームアップとクールダウンの方法と行うタイミングがわかった。紹介のあった動画を見てトレーニングをしてみたいと思った。（バレエ学習者）
- バレエの前と後のケアがとても参考になった。今後に活かしたい。（バレエ学習者）
- これから長くバレエを続けていく上で、正しい知識を身につけて理解することができた。（バレエ学習者の保護者）
- 地方に住んでいるためオンライン開催のセミナーで学ぶことができ嬉しかった。（バレエ学習者の保護者）

## 3-2 著作権セミナー

コロナ禍を経て、バレエ・ダンスに関する動画や画像が発信される機会は大幅に増え、著作権や著作隣接権に関する理解の重要性が高まっている。情報発信はバレエやダンスの魅力を広く世の中に伝えていくために有効であるが、発信者が意図せずに著作権侵害を行ってしまうことのないよう、著作権に関する正しい知識を広く啓蒙する必要がある。

近年は、日本バレエ団連盟に加盟する多くのバレエ団が、ダンサーたち自身による振付作品を発表する公演の機会を設けるようになるなど、素晴らしい振付家が生まれる環境づくりにも目が向けられているが、振付家がその作品を国内外で発表する際には、著作権に関する知識を持ち、権利・義務双方の観点から自身の身を守りながら、その権利を十分に活用できることが望ましい。

また、バレエ教室の発表会等でも著作権に関わる作品が扱われるケースがあるため、広くバレエ・ダンスの上演に携わる方を対象として、日本バレエ団連盟のウェブサイトおよびSNSで広く参加者を募集し、オンラインにて著作権セミナーを実施した。

### ● 実施概要

テーマ：「最新版 バレエ・ダンスの上演に必要な著作権の知識と対応方法」

日時：2024年9月9日（月）15：00～17：00 オンライン（Zoom）にて開催

無料配信：2025年1月24日（金）10:00～2月7日（金）23:59

日本バレエ団連盟のYouTubeチャンネルにて期間限定配信

### 講師：弁護士 東海千尋氏

6歳よりクラシック・バレエを始め高校卒業まではバレエダンサーを目指していたが、大学時代に進路を変更しバレエ・ダンス業界を支える法律家を志す。2009年中央大学法科大学院卒業後、同年司法試験に合格し2010年12月弁護士登録。弁護士法人小野総合法律事務所等の法律事務所にて勤務した後、株式会社リクルート法務部で主に新規事業に伴走する法務支援に従事。



2017年に渡米し、CoWORK法律事務所を設立しスタートアップ企業の法務支援を開始。帰国後からは、スタートアップ企業支援の傍ら、バレエ・ダンス業界のサポートを積極的に行っている。公益財団法人日本舞台芸術振興会理事、Dance Base Yokohamaリーガルアドバイザー。

2017年に渡米し、CoWORK法律事務所を設立しスタートアップ企業の法務支援を開始。帰国後からは、スタートアップ企業支援の傍ら、バレエ・ダンス業界のサポートを積極的に行っている。公益財団法人日本舞台芸術振興会理事、Dance Base Yokohamaリーガルアドバイザー。

### <主な内容>

- 著作権法の基本的な考え方
- バレエ・ダンスに関する個別事象への対応
- Q&A

### <参加者>

オンラインセミナー参加者：計84名

うち、バレエ指導者：33名

バレエ団やバレエ関連事業の運営スタッフ：30名

振付家／振付作品の発表を視野に入れている方：14名

### <参加者の声>

- バレエ・ダンスに特化した内容で、著作権について権利者の整理、必要な許諾の整理ができて、大変参考になった。
- 何をしたいかによって許諾を取る人物が変わることを知り、事前にしっかりと計画を練るよう心掛けたいと思った。また、日頃から著作者や実演者との良好な信頼関係を築くよう取り組みたいと思った。
- 著作権について、基本的なところから教えていただけてとても参考になった。大丈夫だろうと思っていたことも権利侵害に当たることがわかったので、今後舞台をするときには一つひとつ明確にして、許諾が必要かどうか検討していきたいと思った。
- 「自分を守りながら著作物を最大限活用する」という言葉が印象的だった。面倒だな、と思いながらやっていたことを、少々でも前向きに捉えることができるようになった。
- 著作権はクリエイション活動や上演活動を縛るためのもののように感じていたが、気をつけつつも、周りとの信頼関係を保つことで、必ずしも活動の妨げになるものではないと感じ、安心した。

---

## 一般社団法人 日本バレエ団連盟

---

1968年、日本のバレエ界と文化庁を結ぶパイプラインとして「連絡協議会」が組織された際、今後のバレエ界の発展のために自由に討議する場を作ろうという声が上がリ、1971年にスターダンサーズ・バレエ団、チャイコフスキー記念東京バレエ団、牧阿佐美バレエ団の3団体により「東京バレエ協議会」が結成された。後に東京シティ・バレエ団が加わり、以降バレエ団の枠を超え共通する諸問題に連携して取り組んできた。

2014年9月、東京バレエ協議会4団体に新たに井上バレエ団、小林紀子バレエ・シアター、貞松・浜田バレエ団、法村友井バレエ団が正会員、新国立劇場バレエ団が準会員として加わり「日本バレエ団連盟」が発足。2024年4月にはNBAバレエ団、谷桃子バレエ団、7月にバレエ シャンブルウエストが正会員として加わり、会員団体は計12団体となった。プロフェッショナル・バレエ団を統括する全国組織として、日本バレエ界の更なる発展とその魅力の発信に努めている。

---

令和6年度 舞台芸術等総合支援事業（芸術家等人材育成）  
「新進バレエダンサー・バレエ団運営スタッフの育成」報告書



2025年3月発行

編集発行：一般社団法人日本バレエ団連盟  
〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-12-30 芸能花伝舎2階  
Tel: 03-6279-4771 Fax: 03-6279-4772  
URL: <http://japan-ballet.com/>

執筆：一般社団法人日本バレエ団連盟  
印刷／製本：株式会社インフォテック

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術等総合支援事業（芸術家等人材育成））  
独立行政法人日本芸術文化振興会

---

本報告書の全部または一部を、著作権法で定められている範囲を超え、無断で複製・転載・公衆送信等を行うことはできません。

非売品

